

第3回 大井川水系流域治水協議会 議事要旨

1. 日時：令和4年3月23日（水） 13：30～14：30
2. 形式：WEB会議（Webex Meetings）
3. 出席者：3ページ目参照
4. 議事
 - ① 大井川水系流域治水協議会 規約について
 - ② 大井川水系流域治水プロジェクトについて
 - ③ 令和3年度 取組状況のご紹介
5. 議事概要
 - ① 大井川水系流域治水協議会 規約について
 - 静岡地方気象台の構成員追加に伴う、協議会規約（変更案）の決議
 - ② 大井川水系流域治水プロジェクトについて
 - 令和3年3月に策定・公表した大井川水系流域治水プロジェクト「位置図」「ロードマップ」に加え、「グリーンインフラの取組」「（今年度の）流域治水の具体的な取組」「事業効果（国直轄区間）の見える化」を今年度末に新たに公表するため、公表に係る決議を実施した。
 - 「流域治水の具体的な取組」で公表する各指標（河川の整備率など）については、現在、関係する官公庁より集計中である。令和3年度末の本省ウェブサイトでの公表前に協議会構成員内で共有する。
 - ③ 令和3年度 取組状況のご紹介
 - 各構成員より今年度の取組状況についてご紹介していただいた他に、流域治水協議会事務局（静岡河川事務所）より中部地方整備局管内の取組事例について紹介した。

【各構成員からの主な紹介内容】

- 【島田市】

被害対象を減少させるための対策として、4月1日公表予定である立地適正化計画を紹介した。計画策定にあたり、安心・安全に暮らせる居住環境づくりを目指す為に居住誘導区域の設定に災害リスクを考慮している。また、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として雨水浸透ますの設置を促進している。都市計画区域内で雨水浸透に適した区域を設定し、区域内の土地利用事業（面積1,000㎡以上）の分譲宅地造成において雨水浸透ますの設置を進める。
- 【焼津市】

「グリーンインフラの取組」として、国交省と連携し潮風グリーンウォーク（緑の防

潮堤)の整備を進める。今年度までに国管理区間(二級河川栃山川から吉永放水路)の盛土工事が完了し、来年度以降は散策路や植栽工事を行い、景観・環境に配慮した防潮堤の整備を進める。

- **【藤枝市】**

マイ・タイムライン作成の推進と併せて、住民の避難行動を促し事前の水防活動が実現出来るようにAI(人工知能)による数時間後の河川水位予測の実証実験を進めている。河川水位予測データの市民への一般公開に当たっては、課題が多々あることから国交省や気象台さまにご相談させていただきながら、課題を解決しつつ、更なる予測精度の向上の為に、引き続き河川水位予測の実証実験に取り組む。

- **【牧之原市】**

今年度を実施した、広報誌やリーフレット等を活用し出水期前に水害対策の啓発活動をはじめとする、住民の防災意識向上のための取組や逃げ遅れによる被害をなくすための取組などを紹介した。今後は、学生を対象としたハザードマップの周知と利活用の促進などに力を入れていく。

- **【吉田町】**

「グリーンインフラの取組」として、今年度は川尻防潮堤への地元中学生によるシャリンバイ(花木)苗木の植樹を実施した。防潮堤による防災に加え、散策や眺望の場(海浜回廊)として活用による賑わい創出、地元中学生の植樹による地元愛の創出を目的としている。

- **【川根本町】**

国土交通省长島ダムによる洪水調整、静岡県による大井川の河床掘削・護岸整備、川根本町による洪水・土砂災害ハザードマップなど国・県・川根本町が連携して取り組む治水対策を紹介した。

- **【静岡県島田土木事務所】**

「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として大井川水系中流七曲りブロック整備計画に基づき大井川本川の河道掘削(V=167,200m³)や護岸整備を進めた。令和4年度以降、大井川水系下流ブロックでも伊太谷川の護岸整備を進める。

- **【森林整備センター 静岡水源林整備事務所】**

「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として水源林造成事業による森林の整備・保全を行っている。水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進していく。大井川流域における事業地は約100

箇所（森林面積約2千ha）であり、令和3年度は除間伐37haを実施した。今後も、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していく。

- 【静岡地方気象台】

気象庁の情報が防災対応判断に活かされるよう、市町や学校で「理解・活用」していただくための支援を行う。具体的には、平常時は自治体職員を対象に防災気象情報の利活用に向けた実践的な研修等を実施する他に、災害時は今後の天候や注意報・警報の見通しを解説・助言し、自治体の災害対応を支援する「気象庁防災対応支援チーム（JETT）」を派遣するなど、関係機関との連携強化に取り組んでいる。

気象に関する予報精度の向上への取組として、今後も線状降水帯の予測精度の向上や最大危険度予測（土砂災害・浸水害・洪水）の検討を進める。

- 【長島ダム管理所】

令和元年12月策定の「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」に基づいて、大井川水系では令和2年5月に治水協定を締結し、大井川水系の計15ダムで最大約1億520万m³の洪水調節容量が加わるなど事前放流の実施方針が定められた。長島ダムでは洪水調節可能容量が最大で6,369.2万m³となるなど、洪水調節機能の強化が図られている。

- 【静岡河川事務所】

直轄管理区間の河川整備事業では、神座地区での堤防整備や河口部の河道掘削、侵食破堤のリスクを軽減させる為に低水護岸の整備を実施した。海岸事業では、高潮や侵食対策として大井川工区などで有脚式離岸堤の整備や、榛原工区などで粘り強い堤防の整備を進める。令和7年度末までを目標に、国直轄の全区間で昭和54年10月洪水（戦後最大規模）を安全に流下できるよう堤防整備・河道掘削を引き続き実施する。

防災ステーション整備は焼津市・吉田町と協力し今年度も整備を進めた。災害時の緊急復旧活動を行う拠点となるだけでなく、平常時は防災学習の場などとして利用する事を予定している。

グリーンインフラの取組では、島田市大井川ミズベリング協議会のもとで蓬萊橋かわまちづくりを進め、今年度は水辺の利活用等を検証する社会実験の実施と検証をした。ハード整備においては今後、国土交通省が親水護岸や基盤整備等を実施、島田市が上面整備を実施する。

水防災教育授業の更なる促進を目的に、静岡大学と「水防災学生サポーター制度」を令和3年9月に創設した。今年度はコロナ感染拡大もあり制度を活用した授業は実施出来なかったが、来年度以降は実施できるよう大学や学校側と調整をしていく。

想定最大規模よりも高頻度の降雨を対象に、外水氾濫において浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ（浸水頻度図）」を作成中である。来年度以降は、各構成員の皆様によるご協力のもと、内水氾濫も対象に水害リスクマップを作成する。

【出席者一覧】

構成員（敬称略）

	氏名	備考
島田市 市長	染谷 絹代	(代理) 副市長 牛尾 伸吾
焼津市 市長	中野 弘道	(代理) 建設部長 久保山 巖夫
藤枝市 市長	北村 正平	(代理) 都市建設部 基盤整備局 河川課長 井原 豊
牧之原市 市長	杉本 基久雄	(代理) 危機管理監 糸田 浩之
吉田町 町長	田村 典彦	(代理) 理事 松原 克彦
川根本町 町長	藺田 靖邦	(代理) 建設課 課長補佐兼室長 岩田 尚也
静岡県 島田土木事務所長	大滝 和広	
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター 静岡水源林整備事務所 長	天田 泰	(代理) 主幹 前田 宗春
気象庁 静岡地方气象台長	高嶺 透	(代理) 水害対策気象 官 工藤 美華子
国土交通省 中部地方整備局 長島ダム管理所長	松村 昭洋	
国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所長	立松 明憲	

オブザーバー（敬称略）

	氏名
静岡県 経済産業部 森林保全課 治山班長	大野 文敬
林野庁 関東森林管理局 大井川治山センター 所長	小川 農人